

5課

聖書の学び方

5月2日

安息日午後

4月25日

暗証聖句

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も/むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ/わたしが与えた使命を必ず果たす。(イザヤ 55:11、新共同訳)

このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す。(イザヤ 55:11、口語訳)

今週の聖句

ヨハネ 15:1~8、マルコ 1:35、歴代誌上 16:11、詩編(詩篇)119:105、イザヤ 50:4、イザヤ 55:1~13

今週のテーマ

初めて聖書を手にしたときのことを思い出してください。子どもの頃、クリスチャンの親戚から贈られたのかもしれませんが。あるいは大人になってから、自分で購入したのかもしれませんが。どれくらいの期間、あなたの手元に聖書があるにせよ(もしかしたら数冊)、あなたがこの書物にどれほどの価値を置いているか考えてみてください。聖書は、あなたにとって最も貴重で大切な所有物の一つでしょうか。それとも、神の生ける言葉がすぐ手の届くところにあることを当たり前のように思っているでしょうか。聖書を継続的に読むことに苦勞していますか。「何から始めたらいいのか」「神様に近づくために、どのようにこの書物を読めばいいのか」と、考えたことはありませんか。

マルティン・ルターはこう言いました。「何年もの間、私は毎年二度、聖書を通読している。もし聖書が大きくて力強い木で、その一つひとつの言葉が小枝であったとしたら、そこに何があり、何を与えてくれるのかを知りたくて、私はすべての枝をそとたたいて確かめていだろう」

毎日充実した聖書研究をしている人も、聖書がほぼ閉じたまま本棚で眠っている人も、私たちはみな、神との聖書研究の時間をもっと深めることができます。今週は、神の言葉をよりよく学ぶための実践的な方法を探っていきます。

聖書を読むために、いつもより少し早く目覚まし時計をセットして早起きしたことはありますか。朝、やっとの思いでベッドから這い出し、時計を見て、「15分しかない。急がないと!」と思ったことはありませんか。形だけの短い祈りをささげたり、聖書を1章ざっと読み流したりして、良心は鎮まったものの、胸のうちは満たされず、慌ただしく1日を始めたことはありませんか。

「聖書を急いで読んだのでは、ほとんど益はありませんし、たとえ聖書全体を通して、その美しさを認めることはできず、奥深いところに隠された意味を理解することができません」(『キリストへの道』改訂第三版文庫版 127、128 ページ)。

確かに、消火栓から(大量に速く)水を飲むように聖書を読むことで得られる祝福はありますが、聖書を急いで読んでも、多くのことを見逃してしまう可能性があります。神は、私たちが神について(そしてその過程で、私たち自身についても)より深く知ることができるように、靈感を受けた貴重な御言葉を与えてくださいました。言葉では言いあらわせないほどすばらしい神の品性と、歴史を通じて神がどのように人間と関わってこられたかを、時間を取って理解するとき、私たちは神をもっと愛さずにはいられません。その関わりの記録は、まさに私たちの手の中にあります。でも、御言葉を読むことで神を知るためには(使徒 17:11)、私たちは時間を見つけ、時間をかけなければなりません。以下の提案について、考えてみてください。

神を求める気持ちを心に起こしてください、と神に願い求める——エレミヤ 29:13、14と詩編(詩篇) 37:4の約束に基づいて求めてください。いつもより早く目覚められるように、あるいは1日の中で(神と交わるための)自由な時間が少し得られるように、神にお願いしましょう。

あなたの時間を神にささげる——確かに、あなたは忙しく、すぐにやらなければならないことがたくさんあります。しかし、神との時間は、かけがえのないものです。1人で静かな場所に行き、詩編 46:11(口語訳 詩篇 46:10)を読んでください。賛美歌「わが主にすべてを」[希望の讚美歌 151 番]を神に向かって歌うか、その歌詞を読みましょう。あなたの人生の中で、まだ神に明け渡せていないかもしれない領域について考え、それらを神にささげてください。

気が進まないときでも、神と時間を過ごす——健康になるには意識的な選択と行動計画(運動と正しい食事)が必要です。同じように、神との親密な関係を持つためにも意識的な選択が必要です。新しい習慣を身につけるには、少なくとも3週間かかること、また聖霊の助けなしには決して成功しないことを忘れないでください。

【参考】英語テキストにある文

Read again John 15:1-8. What is Jesus telling us about abiding in Him, and why is this so crucial to our faith?

さらに、ヨハネ 15:1~8 を読んでください。イエスは、御自身にとどまることについて、私たちに何を語っておられるのでしょうか。また、なぜそれが私たちの信仰にとって非常に重要なのでしょうか。

33

使徒 17:11 (新共同訳)

17:11 このユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。

エレ 29:13、14 (新共同訳)

29:13 わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めらば、

29:14 わたしに出会うであろう、と主は言われる。わたしは捕囚の民を帰らせる。わたしはあなたたちをあらゆる国々の間に、またあらゆる地域に追いやったが、そこから呼び集め、かつてそこから捕囚として追い出した元の場所へ連れ戻す、と主は言われる。

詩 37:4 (新共同訳)

37:4 主に自らをゆだねよ/主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

詩 46:11 (新共同訳)

46:11 「力を捨てよ、知れ/わたしは神。国々にあがめられ、この地であがめられる。」

ヨハ 15:1~8 (新共同訳)

15:1 「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっているが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。

15:3 わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。

15:4 わたしにつながっていない。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないならば、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながって

使徒 17:11 (口語訳)

17:11 ここにいるユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直であって、心から教を受け入れ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。

エレ 29:13、14 (口語訳)

29:13 あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、

29:14 わたしはあなたがたに会うと主は言われる。わたしはあなたがたの繁栄を回復し、あなたがたを万国から、すべてわたしがあなたがたを追いやった所から集め、かつ、わたしがあなたがたを捕われ離れさせたそのもとの所に、あなたがたを導き帰ろうと主は言われる。

詩 37:4 (口語訳)

37:4 主によって喜びをなせ。主はあなたの心の願いをかなえられる。

詩 46:10 (口語訳)

46:10 「静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる。」

ヨハ 15:1~8 (口語訳)

15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをつりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいにするのである。

15:3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

15:4 わたしにつながっていない。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていない。枝がぶどうの木につながっていないならば、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたし

いなければ、実を結ぶことができない。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

15:6 わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

15:8 あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。

につながっていないければ実を結ぶことができない。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人につながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

15:6 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

月曜日 4月27日 場所

問1 あらゆることにおいて、イエスは私たちの完璧な模範であり、個人的な神との交わりの時間についても、それは変わりません。マルコ 1:35 は、イエスが神と過ごされた時間について、何と述べていますか。

これは一つの聖句にすぎませんが、イエスのこの模範から多くを学ぶことができます。太陽が昇るずっと前から、イエスは、静かな1人になれる場所に行き、父なる神と共に過ごされました。周りの世界が目覚める前に、ガリラヤ湖畔や丘の斜面に座り、父なる神と交わり、祈っておられるイエスの姿を想像できるでしょうか。この聖句は、イエスが祈りを何よりも大切にされていたことを描いており、彼にとって祈りが優先事項であったことは明らかです。この時間こそが、イエスが耐え忍ばれたあらゆることに立ち向かう力を与えたに違いありません。イエスが毎日の始まりにこの時間を必要とされたのなら、私たちはどれほど必要としていることでしょうか。

神は私たちに、「わたしの顔を尋ね求めよ」〔口語訳「わが顔をたずね求めよ」〕(詩編〔詩篇〕27:8)とおっしゃり、私たちが、「主よ、わたしは御顔を尋ね求めます」〔口語訳「主よ、わたしはみ顔をたずね求めます」〕(同)と応じることを望んでおられます。

問2 歴代誌上 16:11 は、いかに神の顔を尋ね求めるべきかについて、何と述べていますか。

あなたは毎朝、神と共に過ごすための場所がありますか。窓際の椅子、屋外の静かな場所、あるいは台所のテーブルなどに、毎日、神の言葉から学ぶことのできる場所を見つけられるかもしれません。イエスの足もとに座ることは、そのために最も良い場所です(ルカ 10:39~42)。毎日、特定の場所に行き、神と過ごす習慣を身につけることで、その場所に戻る事が自然になっていきます。時々、1日休んだとしても、気落ちしないでください。緊急事態が発生し、神と共に時間を過ごせなくなることもあるかもしれません。しかし、神と共に過ごす時間を持たないまま、あまり時間が過ぎてしまわないようにしましょう。神との永続的な関係を築くことは、日々の決断であり、もしあなたが選ぶなら、きょうからでも再開できるということを忘れないでください。

先週、あなたは祈りと聖書を読むことに、どれくらい時間を費やしましたか。

【参考】英語テキストの英文(日本語訳でカットされた続きがあります)

During the past week, how much time have you spent in prayer and Bible reading? What does your answer tell you about changes you might have to make in your priorities?

先週、あなたは祈りと聖書を読むことに、どれくらい時間を費やしましたか。その答えは、自分の優先順位についてどんな見直しが必要か、あなたに教えてください。

34

マコ 1:35 (新共同訳)

1:35 朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。

詩 27:8 (新共同訳)

27:8 心よ、主はお前に言われる/「わたしの顔を尋ね求めよ」と。主よ、わたしは御顔を尋ね求めます。

代上 16:11 (新共同訳)

16:11 主を、主の御力を尋ね求め/常に御顔を求めよ。

ルカ 10:39~42 (新共同訳)

10:39 彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。

10:40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに

マコ 1:35 (口語訳)

1:35 朝はやく、夜の明けるところ前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。

詩 27:8 (口語訳)

27:8 あなたは仰せられました、「わが顔をたずね求めよ」と。あなたにむかって、わたしの心は言います、「主よ、わたしはみ顔をたずね求めます」と。

代上 16:11 (口語訳)

16:11 主とそのみかたを求めよ。つねにそのみ顔をたずねよ。

ルカ 10:39~42 (口語訳)

10:39 この女にマリアという妹がいたが、主の足もとにすわって、御言に聞き入っていた。

10:40 ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心をとりにみだし、イエスのと

近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

10:41 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。」

10:42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

ころにきて言った、「主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください」。

10:41 主は答えて言われた、「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。」

10:42 しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリアはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」。

火曜日 4月28日 聖書の深い研究

聖書を研究するのに学者である必要はないとしても、どうすれば聖書を深く研究することができるのでしょうか。

祈る——聖書研究の時間の始めと終わり(そして、その中間)にささげる祈りの重要性は、いくら強調してもしすぎることがありません。エレン・ホワイトは、聖書を読むとき、私たちは1人ではないと教えています。聖霊を導き手として迎えることで、私たちは気を散らすあらゆるものを退け、敵は逃げて行きます。「聖書は祈りなしに研究すべきではない。聖霊だけが、理解しやすい事柄の重要性を感じさせ、あるいは理解の困難なものを曲解しないように守る」(『希望への光』1891ページ、『各時代の争闘』第37章)。

読み、書く——聖書を単に読むことと研究することの大きな違いは、一つの重要な行為、つまり書くことにあると言えるでしょう。書くことは、思考の速度を緩め、神の言葉をじっくり味わい、観察、解釈、適用、献身といったことが生じるペースで研究に取り組むのに役立ちます。また、最初は頭の中でまとまりのなかった考えを、書くことによって整理し、その日1日、心に留める助けにもなります。しかも、書き留めたものは記憶に残りやすくなります(詩編〔詩篇〕119:15、16)。書くことができない場合は、聖書を声に出して読み(あるいは聞き)、そのあと、自分の思いを神への祈りとしてささげましょう。

伝える——学んだことを誰かに話してください。こうすることで、それがあなたの心に定着し、相手を励ますことにもなります。まずは、聖書の短い書(ヨナ、マルコ、フィリピ〔ペリピ〕、Iヨハネなど)を選び、少しずつ読み進んでください。以下にご紹介するのは、1節(節ごと)、1箇所、あるいは1章全体に適用できる簡単な学び方です。

- (1) 読む際に、聖霊があなたの心を導き、心を和らげてくださるように祈る。
- (2) 聖書の1節、または1箇所を選ぶ。
- (3) その箇所を日誌に書くか、読んでいて印象に残ったその一部を書き留める。
- (4) 祈りながらその箇所を読み直し、重要な考えだと思うところに下線を引く。
- (5) 下線を引いた考えがあなたに語りかけることを書き留める。
- (6) これらの考えについて、またそれがあなたと神との関係にどう影響を与えるかについて祈る。
- (7) きょう、誰にこのことを伝えられるか考えてみる。

「神の民が恵みにおいて成長しているときはいつでも、彼らは神の言葉をより明確に理解し続けるだろう。彼らは、その聖なる真理の中に新たな光と美しさを見いだすのである。これは、あらゆる時代の教会の歴史において真実であり、終わりの日まで続く」(「著者と編集者への勧告」38, 39 ページ、英文)。

【参考】——Ellen G. White, *Counsels to Writers and Editors*, pp. 38, 39.

“Whenever the people of God are growing in grace, they will be constantly obtaining a clearer understanding of His word. They will discern new light and beauty in its sacred truths. This has been true in the history of the church in all ages, and thus it will continue to the end.”

【参考】英語テキストにある文

In what ways have you found the message in the quote above to be true for you? See also Psalm 119:105.

上記引用文に込められたメッセージは、あなたにとってどのような点で真実だと感じましたか。詩編(詩篇)119:105 も参照してください。

35

詩 119:15、16 (新共同訳)

119:15 わたしはあなたの命令に心を砕き
/あなたの道に目を注ぎます。

16 わたしはあなたの掟を楽しみとし/御
言葉を決して忘れません。

詩 119:105 (新共同訳)

119:105 あなたの御言葉は、わたしの道
の光/わたしの歩みを照らす灯。

詩 119:15、16 (口語訳)

119:15 わたしは、あなたのさとしを思い、
あなたの道に目をとめます。

16 わたしはあなたの定めを喜び、あなた
のみ言葉を忘れません。

詩 119:105 (口語訳)

119:105 あなたののみ言葉はわが足のとも
しび、わが道の光です。

聖書を研究する方法はたくさんあります。例えば、(既に述べたように)節ごとの研究、章ごとの研究、主題ごとの研究、単語ごとの研究、書巻ごとの研究などです。聖書用語索引や聖書辞典を使って研究することもできますし、聖書を「大争闘シリーズ」と並行して読むことで、さらなる洞察を得ることもできます。録音された聖書を、自然の中を散歩しながら聞くこともできれば、友人や小グループで一緒に研究することもできます。

友情を新鮮に保つために、変化や新しい体験を用いるのと同じように、聖書を研究する際にもさまざまな方法を用いて、神との日々の一と時を新鮮で活気に満ちたものに保つ必要があります。学ぶべきことは常にあります!

聖書研究の時間をいきいきと保つために役立つのは、あなたが発見したことをほかの人に伝えることです。学んだことを説明するとき、要約し、整理するプロセスによって私たちの考えがまとまり、これによって知識が定着しやすくなります。さらなる祝福は、ほかの人と分かち合い、話し合うとき、霊的な対話がしばしばお互いを刺激し、強め合うことです。心の中に最も深い学びが生じるのは、しばしば私たちが誰かに伝えたり、教えたりするときなのです。

またあなたは、日々学んでいる内容が神から自分へのメッセージであるだけでなく、神からほかの人へのメッセージでもあることに気づくでしょう。

問3 イザヤ 50:4 を読んでください。この聖句は、神との関係を持つことや、それが他者との関係にどう影響するかについて、どんなことを教えていますか。

個人的な聖書研究の時間は、私たちを強めるだけでなく、その日に出会う人々を私たちが励ます力を与えます。二重の祝福になりうるのです。

私たちの霊的な生活はマラソンです。ゴールを見据えつつ、常に自分のレースを走り続けられるよう、主に求めてください(フィリ[ピリ]3:14)。一時的に少し怠けてしまっても、落ち込まないでください。しかし、あなたの関係、特に聖書研究と祈りの時間を活気に満ちたものに保つために、必要な変化を生活の中に起こしましょう。なぜなら、まことに永遠の命とは、きょう、神を知ることだからです(ヨハ17:3)。日々、神と御言葉につながるといふ私たちの誓いは、人生を変えます。

今週の暗唱聖句を読み、その意味を考えてみてください。今、あなたは何を研究していますか。誰とそれを分かち合うことができますか。

イザ 50:4 (新共同訳)

50:4 主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え/疲れた人を励ますように/言葉を呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし/弟子として聞き従うようにしてくださる。

フィリ 3:14 (新共同訳)

3:14 神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

ヨハ 17:3 (新共同訳)

17:3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。

イザ 50:4 (口語訳)

50:4 主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ、また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、教をうけた者のように聞かせられる。

ピリ 3:14 (口語訳)

3:14 目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞を得ようと努めているのである。

ヨハ 17:3 (口語訳)

17:3 永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。

木曜日 4月30日 なんと甘いことでしょう！

あなたの大好きなデザートを思い浮かべてください。それは健康によいものですか。あなたは甘味料として、蜂蜜を使ったり、薬効があるというマヌカハニーを使ったりしているかもしれません。もし蜂の巣を食べたことがあるなら、舌の上で溶けるその柔らかな甘さをご存じでしょう。

詩篇119:103,104(口語訳)は、聖書を蜂の巣(喜びの比喩)と表現しています。「あなたのみ言葉はいかにわがあごに/甘いことでしょう。蜜にまさってわが口に甘いのです。わたしはあなたのさとしによって知恵を得ました」

問4 「わたしはあなたのさとしによって知恵を得ました」(詩篇 119:104、口語訳)とは、どういう意味ですか。聖書研究が私たちに何をもたらすかを理解するうえで、なぜこのような考えは大切なのでしょうか。

確かに、神の言葉は私たちの魂にとって甘美であり、この世が与えるほかのどんなものとも違います。多くのデザートと異なり、神の言葉の甘さは私たちの魂を癒やし、私たちの品性を変えます。もしあなたが神から遠ざかっているとしても、ひざまずいて御言葉(聖書)を開き、唯一あなたを満たす生ける水を飲むことができます。

問5 イザヤ 55:1～13 で、預言者は上記のメッセージをさらに膨らませています。今、少し時間をかけてこの章を読み、次の質問に教えてください。

- 主は、御もとに来て御言葉を「食べる」人に、何を与えてくださいますか。
- ここにおいて、主があなたを招いておられるというのは、どういうこと(意味)ですか。
- 神があなたに要求しておられることは、何ですか。
- 主が約束しておられることは、何ですか。

神の生ける力強い言葉は、私たちの心、思い、魂にまっすぐ働きかけ、キリストにあって成長するように要求します。しかし、御言葉によって私たちが成長できるのは、従順と謙遜の態度で、御言葉の教えに従おうとする意志をもって、それを研究するために時間を取って努力する(確かに、努力を要します)ときに限ってのことです。

【参考】英語テキストの英文

What are concrete ways you can “seek the Lord while He may be found” (Isa. 55:6, NKJV)?

「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに」[口語訳「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ」](イザヤ 55:6)とありますが、具体的にどのような方法があるでしょうか。

37

詩 119:103、104 (新共同訳)

119:103 あなたの仰せを味わえば/わたしの口に蜜よりも甘いことでしょう。

119:104 あなたの命令から英知を得たわたしは/どのような偽りの道をも憎みません。

イザ 55:1～13 (新共同訳)

55:1 渇きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。銀を持たない者も来るがよい。穀物を求めて、食べよ。来て、銀を払うことなく穀物を求め/価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。

55:2 なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い/飢えを満たさぬもののために労するのか。わたしに聞き従えば/良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。

55:3 耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従って、魂に命を得よ。わたしはあなたたちととこしえの契約を

詩 119:103、104 (口語訳)

119:103 あなたの言葉はいかにわがあごに甘いことでしょう。蜜にまさってわが口に甘いのです。

119:104 わたしはあなたのさとしによって知恵を得ました。それゆえ、わたしは偽りのすべての道を憎みます。

イザ 55:1～13 (口語訳)

55:1 さあ、かわいている者はみな水にきたれ。金のない者もきたれ。来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。

55:2 なぜ、あなたがたは、かてにもならぬもののために金を費し、飽きることもできぬもののために労するのか。わたしによく聞き従え。そうすれば、良い物を食べることができ、最も豊かな食物で、自分を楽しませることができる。

55:3 耳を傾け、わたしにきて聞け。そうすれば、あなたがたは生きることができ。わたしは、あなたがたと、とこしえ

結ぶ。ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。

55:4 見よ/かつてわたしは彼を立てて諸国民への証人とし/諸国民の指導者、統治者とした。

55:5 今、あなたは知らなかった国に呼びかける。あなたを知らなかった国は/あなたのもとに馳せ参じるであろう。あなたの神である主/あなたに輝きを与えられる/イスラエルの聖なる神のゆえに。

55:6 主を尋ね求めよ、見いだすうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。

55:7 神に逆らう者はその道を離れ/悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。わたしたちの神に立ち帰るならば/豊かに赦してくださる。

55:8 わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり/わたしの道はあなたたちの道と異なりと/主は言われる。

55:9 天が地を高く超えているように/わたしの道は、あなたたちの道を/わたしの思いは/あなたたちの思いを、高く超えている。

55:10 雨も雪も、ひとたび天から降れば/むなくしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ/種蒔く人には種を与え/食べる人には糧を与える。

55:11 そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も/むなくしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ/わたしが与えた使命を必ず果たす。

55:12 あなたたちは喜び祝いながら出で立ち/平和のうちに導かれて行く。山と丘はあなたたちを迎え/歓声をあげて喜び歌い/野の木々も、手をたたく。

55:13 茨に代わって糸杉が/おどろに代わってミルトスが生える。これは、主に対する記念となり、しるしとなる。それはとこしえに消し去られることがない。

の契約を立てて、ダビデに約束した変らない確かな恵みを与える。

55:4 見よ、わたしは彼を立てて、もろもろの民への証人とし、また、もろもろの民の君とし、命令する者とした。

55:5 見よ、あなたは知らない国民を招く、あなたを知らない国民はあなたのもとに走ってくる。これはあなたの神、主、イスラエルの聖者のゆえであり、主があなたに光栄を与えられたからである。

55:6 あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。

55:7 悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる。

55:8 わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっている。主は言われる。

55:9 天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。

55:10 天から雨が降り、雪が落ちてまた帰らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種まく者に種を与え、食べる者にかてを与える。

55:11 このように、わが口から出る言葉も、むなくしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す。

55:12 あなたがたは喜びをもって出てきて、安らかに導かれて行く。山と丘はあなたの前に声を放って喜び歌い、野にある木はみな手を打つ。

55:13 いとすぎは、いばらに代って生え、ミルトスの木は、おどろに代って生える。これは主の記念となり、また、とこしえのしるしとなって、絶えることはない。

聖書研究の目的は、神を知り、神との関係を深めることです。なぜなら、これこそが永遠の命、つまり愛する神と永遠に共にいることだからです(ヨハ 5:39, 17:3)。

どんな関係においても、相互の関わり合いは欠かせません。黙示録3:20には、イエスが私たちとこのような関わりを持ちたいと望んでおられると記されていますが、私たちは被造物として、創造主について常に学ぶことができることを認識しなければなりません。貴重な宝石を掘り出す鉱夫のように、私たちは聖書を絶えず探求すべきです。聖書のある物語やある箇所を何度読んでも、そこから得られるものは常にあります。「人の知的進歩がどれほどであろうとも、より大きな光を求めて、聖書を徹底的かつ継続的に探求する必要はないなどと、一瞬たりとも考えてはならない。私たちは一つの民として、1人ひとりが預言の研究者となるように召されている」(『著者と編集者への勧告』41ページ、英文)。

【参考】—Ellen G. White, *Counsels to Writers and Editors*, p. 41.

“Whatever may be man’s intellectual advancement, let him not for a moment think that there is no need of thorough and continuous searching of the Scriptures for greater light. As a people, we are called individually to be students of prophecy.”

私たちはまた、聖書を自分自身の人間的な意見や考えに当てはめようとするべきではありません。「私たちはどのように聖書を調べればよいのだろうか。自分たちの教理という杭を次々と打ち込んでおいて、その確立された意見に聖書全体を合わせようとするのだろうか。それとも、自分たちの考えや見解を聖書に当てはめ、真理の聖書によってあらゆる面から自分たちの理論を吟味するのだろうか。聖書を読む人や、さらには教える人でさえ、自分が教えたり、研究したりしている貴重な真理を理解していない人が多い。……多くの人は、聖書の言葉を自分の意見に合うように解釈している」(『著者と編集者への勧告』36ページ、英文)。

【参考】—Ellen G. White, *Counsels to Writers and Editors*, p. 36.

“How shall we search the Scriptures? Shall we drive our stakes of doctrine one after another, and then try to make all Scripture meet our established opinions? or shall we take our ideas and views to the Scriptures, and measure our theories on every side by the Scriptures of truth? Many who read and even teach the Bible, do not comprehend the precious truth they are teaching or studying. . . . Many give the words of Scripture a meaning that suits their own opinions.”

話し合いのための質問

- ① あなたは普段、どんな態度で聖書に接していますか。何か変えるべきことはありますか。謙遜な態度、御言葉に身を委ねる態度は、なぜ重要なのでしょうか。

- ② 聖書が自ら語るようにするために、あなたが捨てるべき確立された意見はありますか。もしあるなら、そのことに関して、今からどのように祈り始めることができるでしょうか。
- ③ 神と人との表面的な関係において、独創性(オリジナリティ)がどのように、つまり、つまずきの石となりえるでしょうか。つまり、何か新しく刺激的なものを見つけたいという欲求が、特に利己的な目的で行われる場合、いかに人を迷わせうでしょうか。

Summary: Personal Bible study is at the heart of having a vibrant and enduring relationship with God. God's Word speaks into our twenty-first-century lives in meaningful ways, just as it has during past centuries. In a similar way to keeping any friendship alive, we should look for ways to keep our devotional lives vivid as we abide in Jesus, trusting His promise that His Word "shall not return to Me void, but it shall accomplish what I please, and it shall prosper in the thing for which I sent it" (Isa. 55:11, NKJV).

要約: 個人的な聖書研究は、神との活気に満ちた永遠に続く関係を築くための核心です。神の御言葉は、過去数世紀と同様に、21世紀の私たちの生活にも意義深い形で語りかけています。友情を築き続けるのと同様に、私たちはイエスにとどまりながら、信仰生活を生き生きと保つ方法を模索すべきです。そして、「わたしの口から出るわたしの言葉も/むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ/わたしが与えた使命を必ず果たす」[口語訳「わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す」](イザヤ書 55:11)という神の約束を信頼するのです。

38

ヨハ 5:39 (新共同訳)

5:39 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

ヨハ 17:3 (新共同訳)

17:3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。

黙 3:20 (新共同訳)

3:20 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。

イザ 55:11 (新共同訳)

55:11 そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も/むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ/わたしが与えた使命を必ず果たす。

ヨハ 5:39 (口語訳)

5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。

ヨハ 17:3 (口語訳)

17:3 永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることでもあります。

黙 3:20 (口語訳)

3:20 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいつ彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。

イザ 55:11 (口語訳)

55:11 このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す。